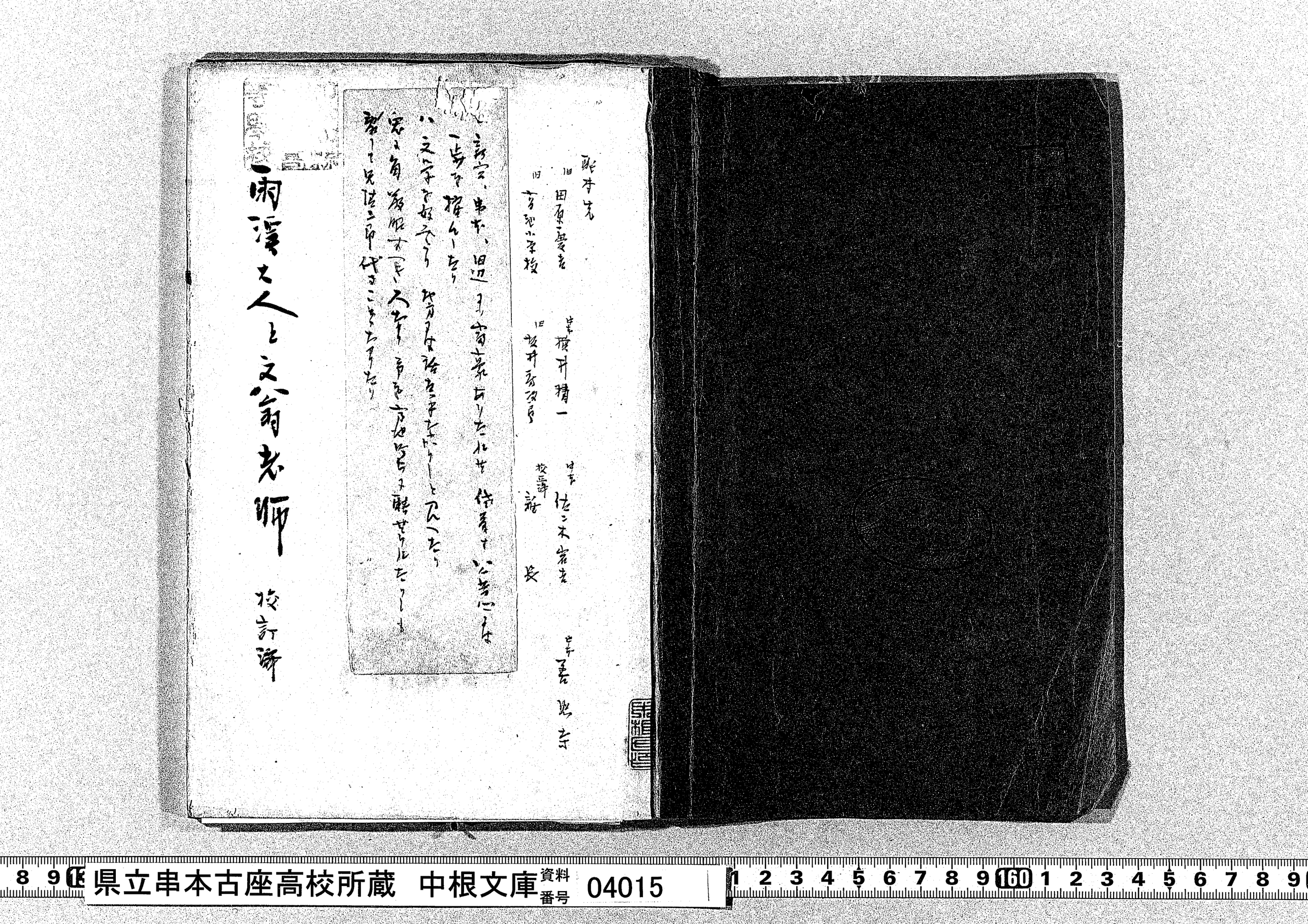
雨滴大人と文翁先師

三校稿本

2 ナ1
89

2

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015



雨溪先生と文翁先師

校訂者

恥本先

旧 田原要吉　　旧 横井精一　　旧 佐木岩吉　　故 吉田熙吉

旧 高知小学校　　旧 坂井高次郎　　校正者 新谷　長

訳字、串本、田辺、子宮高知ありたれば、仕事すべく心を一歩を探んーとう

八文字を好そう　ヤ行子は話をこれたかーと思へたら

宏と角版すべ、人生を高知学子を磨せられたりし

翌ーと兄法二年代さこうたりたり

2-91
39
1

古座高校
28.10.21
藏書NO. 4015

雨澤先人と文部省

校訂者

田原豊吉　　横井精一　　佐々木宏吉
高知小学校　　坂井高校長　　校長　　善照寺

[illegible]、[illegible]、[illegible]、

中根七郎

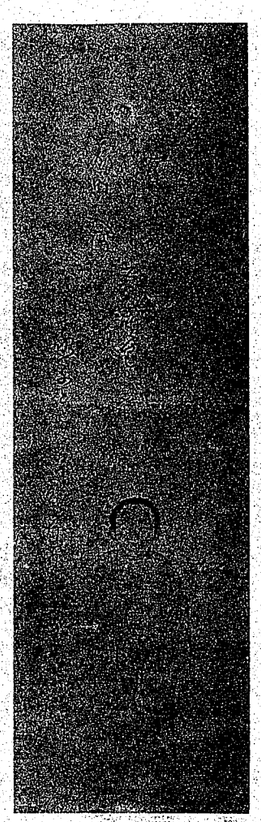
雨濱大人と文翁老師

中根七郎稿

一 佐藤雨濱大人

佐藤家と大人の弟妹

佐藤家の祖は山縣郡高池町大字高池に住し、同郡の支配川筋に於ける第一流の素封家にして聞ゆ。古来多くの山林を所有し、山林の産物を以て営業とす。明治維新の後盛に本家の製造を加へて、同郡新宮川筋に於ける本家業者濱本清十郎氏と併稱せらる。而して熊野に於ける新宮の佐藤家、植松新十郎、石崎佐次郎、一色等郡中本所の富豪多神田清右衛門、矢倉喜兵衛の諸氏と比肩して、地方に重んせらる。



古禪僧誕生佛繪葉書（其三）

三河風外禪師筆

讃曰　嗟かあい天にも地にも只ひとり
　　かけかへのなき我子と思へば

風外禪師の圓通寺時代の筆なり。世に三風外の稱あり、曰く小田原風外（諱は慧端）常陸風外（獄室焉智禪師を云ふ）及びこの三河風外なり。何れも曹洞宗なり、中に就て三河風外禪師、畫才最も秀抜たり。

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

中根七郎

雨濱大人と文翁老師

中根七郎稿

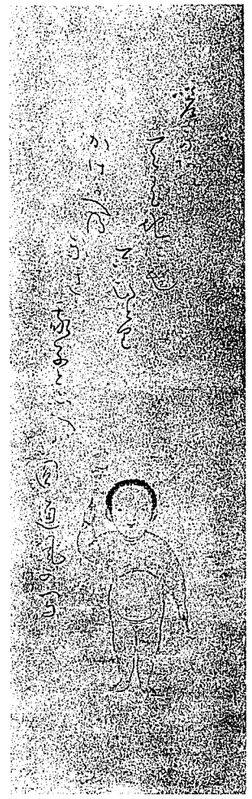
一 佐藤雨濱大人

佐藤家と大人の弟妹

佐藤家の祖談山縣東牛巷郡高池町大字高池に在りて、同郡の玄蕃川筋に於ける第一流の素封家にして聞ゆ。古来多くの山林を所有し、山林の産物を以て営業とす。明治維新の後盛に本家の製造を加へて、同郡新宮川筋に於ける本家業、吉浦太清十郎氏と併稱せらる。而して熊野に於ける新宮の佐藤家、植松新十郎、庄屋作次郎、四軒巷郡串本町の富豪多神田清右衛門、矢倉喜兵衛の諸氏と比肩して、地方に重んせらる。

古禪僧誕生佛繪葉書（其三）

讃曰　嗟かあい天にも地にも只ひとり
　　かけかへのなき我子と思へば



三河風外禪師筆

風外禪師の圓通寺時代の筆なり。世に三風外の稱あり、曰く小田原風外（諱は慧洪）常陸風外（默室焉智禪師を云ふ）及びこの三河風外なり。何れも曹洞宗なり、中に就て三河風外禪師、畫才最も秀拔たり。

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

中根七郎

雨海大人と文翁老師

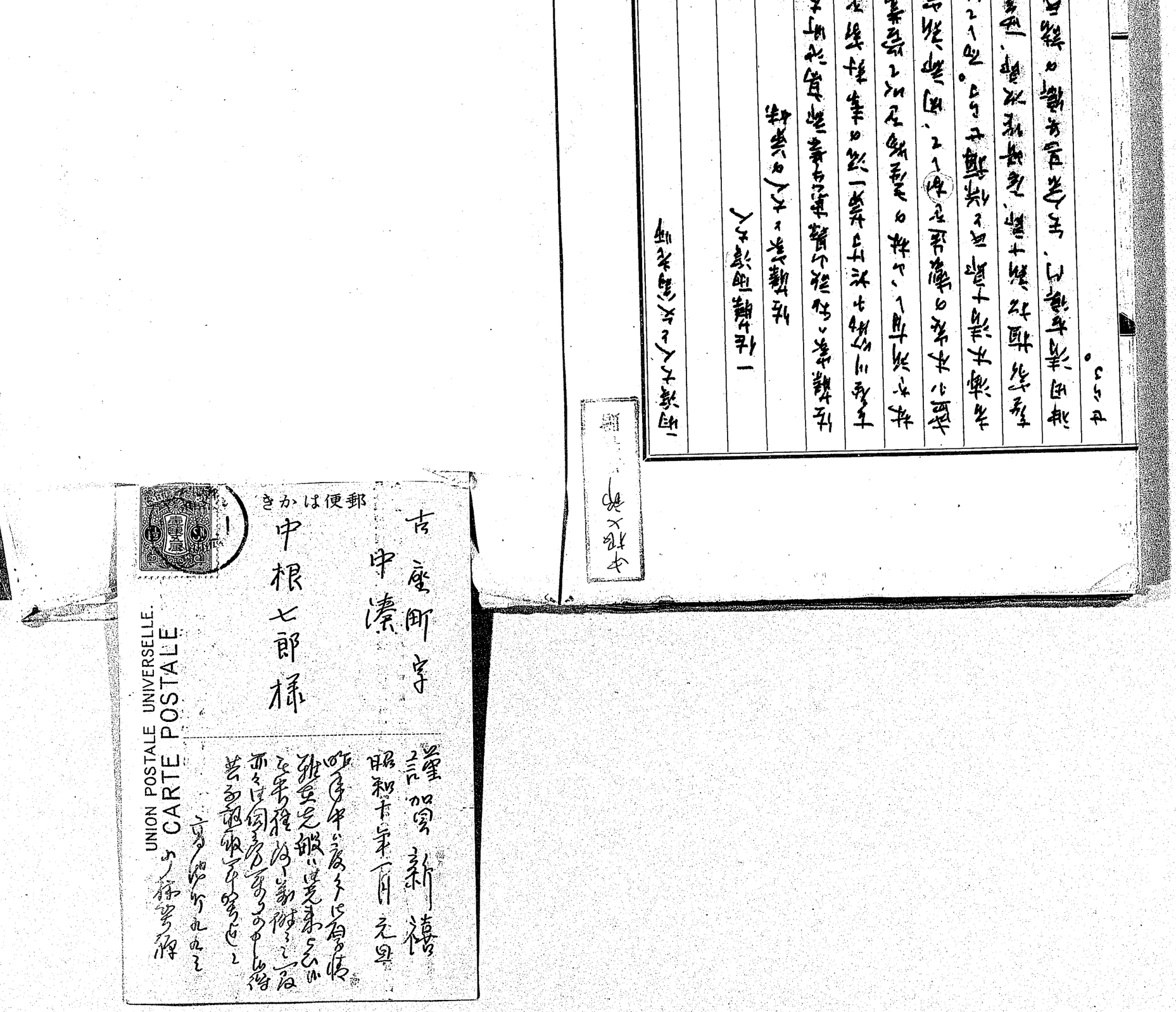
中根七郎稿

一佐藤雨海大人

佐藤家と大人の弟妹

佐藤家の祖は山縣郡高池村大字高池に在り、同郡の玄蕃川筋に於ける第一流の素封家にして聞ゆ。古美濃人の山林を所有し、山林の産物をもつて営業とす。明治維新の後盛に木炭の製造をなして、同郡新宮川筋に於ける木炭業者浦木清十郎氏と併稱せらる。而して熊野に在りての新宮の巨家植松新十郎、名峰紫次郎、一色等と共に串本町の資産家神田清右衛門、矢倉喜兵衛の諸氏と比肩して、地方を富ませらる。

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015



本紙文書

中根文書

一昨後ヘくとく寄をり

一は難波後ヘく

は難波ヘ寄ったくの次第

は難波へ寄ったら賀茂神社へ参詣して

一昨日の清水の参詣の時、宝寺の

参詣は極めて新、後世世人間、世

を渡り本清十郎氏と共に鶴ヶ丘

本渡り本清の鶴ヶ丘、又新宮

本渡り本清の鶴ヶ丘に参詣

本渡り本清の鶴ヶ丘に参詣

郵便はがき

1

UNION POSTALE UNIVERSELLE.
CARTE POSTALE

古座郡字
中濃

中根七郎様

謹賀新禧

昭和十年元旦

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 04015

家ハ雑賀屋敷ニ帰ると、其祖先ハ河内の名草郡と海部郡とヲ領し居りたり、彼の雑賀社（今の和歌山市より出たるあるべし。）と其の近郊（今）川沿岸の高池所、古座所、西向村等ハ、昔大坂の石山本願寺ハ顕如上人を擁けし、織田信長と戦ひたる雑賀党の本拠多し、佐藤氏も恐らく同一の流と思はる。

雑賀党のことを略述されハ。彼の石山本願寺（今の大坂城）の地い、織田信長西国の押へ為に築造したるを以て、其の堂宇伽藍を他の勝地に移して、其跡を譲渡せられんことを求めたるに、顕如上人ハ其の地ハ中興の山ハ祖蓮如上人垂跡の道場なれいとて之に応せず。信長聞きて大に怒り遂に兵力を以て指取ることに決す。是に於て一向宗の信徒なる雑賀党ハ敢然として起ち、顕如上人を擁して石山城に守り、信長に抗争ること実に十年の久しきに及ぶ。浜石の信長を到底力を以て屈し難きことを知り、勅命を請ひて顕如上人と和議を結び、依て石山城を手に入ること、せり。而して石山開城の後、雑賀党ハ各地に散行して安住の地を求め、其の古座川附近に来るものハ其の頭山本喜内に率ひ移住し来りたるなり。山本善内ハ雑賀孫一郎の別祖なり

雑賀大人ハ通称清蔵、名ハ公定、字ハ麟章と云ふ、雑賀ハ其の姓なり、後家名を襲きて名を長右衛門と改む。安政元年十二月八日高池所大字高池字池ノ口の本宅に生れ、明治四十二年一月三日其の別墅磐天社に於て卒せり、享年五十有五、池ノ口霊巌寺の先塋に葬り、釋順正と諡す。大人の卒去を聞き遠近之を惜まざるハなし。大人ハくに子氏と云ふ、

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

京都市小林多三郎氏の養子なり、貴族院大人事へらる。」

大人異父弟妹二人あり、弟は常二郎氏と云ひ、後常と改め、健堂と称す。家を本宮の隣に構へ。学業あり、夢て大坂の遊人中島信行、河津祐之等の諸名士と交り、好文政事を談じ演説会等を開く、和歌山県の出身なり常氏を以て異端と称す。後に挙げられて本郷人事議員となる。」

妹を於久野氏と云ふ、其の郎君は佐藤寅次郎氏なり。寅次郎本姓を山本氏と云ひ、薩国鹿の人なりと云ふ。風流の学にて学位を修、材幹ありて人之を重んず。常に慨して訓ずる者の如きも、一旦壇上に立ては、溢々雄辯を振ひて聴者を驚歎せしむ。陸奥宗光伯、中島信行氏等と親交あり、夢て南洋に遊ぶ。其珍奇の事業をなし好果を得た、

勉れとす陸奥伯に帯つて之を素んたりと云ふ。後朝鮮に往き郎等を金で、一日結髪を出てんとして他賞と誤認せられ、漢の狙撃を受けたるも幸に軽傷なりしを以て、壇々たる人物なりしを知れり。

大人の修学

大人の幼時何れに学ばれたるや、人之を明かせず。高知に、弘化二年の頃、大田一郎之右衛門氏寺子屋を開きて子弟を教へ、慶応元年廃止したること東京学都誌に見る。大人は此塾に入られたるに非ずや思へり。

後明治二年和歌山藩の御学所を中濱、村今の大学中濱町の開かるゝや、翌年八月十六日之に入所せられたること、履歴書中に見えたり、時に年十六なり。明治四年七月廃藩の時郷

業所を閉鎖せらるゝや、中湊村の碑保市右衛門氏、江村と称
黄き擁して、和歌山より儒者鈴木鐵城氏を招聘して郷
学所を継続し、明治六年十一月を以て小学校教室の際に及
ぶ。而して大人逗留の時また開校あらせ。
明治二十一年の頃熊谷萬堂氏の来るや、家に留めて教授
を受け、又鈴木鐵城氏を招きて経義を質さる。大人の
業力に新る所に培養せられたるなり。
是より先明治七年、南宇盡山家山下蓮雨氏、橋本桂園の高弟高池
の遊ずや、就いて書を学ぶ。故に大人の晩年興に乗じて
四君のことを描き、之に詩句を題せられたること有りと云
ふ。

大人の墓を展ぜれば、沈域の左側に熊谷萬堂氏の碑（野呂鐵城撰）
民碑文撰あり。次に山下蓮雨氏の筆塚（江間天江民撰文）あり。共に大人の
其の師の為に建てる所なり、其の情誼の厚きことに於て知るべし。

大人の事業

孝業に対する大人の感念は、普通の事業家とは大に其の趣
を異にし、自己を共同の利益増進に置き、他為に多少の犠
牲を払ふにかゝはらず敢て辞せざる所あり。恰も近年孝業紀
念会あるに際し盛に稱道せらるる所の共存共栄の上に適へ
り。
又何の事業に限らず、大抵其の創業の時より、安定の境に到
る迄の間には苦障の地帯あり、之を突破し得ざれば失敗者となり、故に創業者には失敗の家
を出だし得ざれば失敗者となる、故に創業者には失敗の家
なる覚悟あるべきなり。而して他創業者に取敗の相違あり、事

業異なれども、指導者となるべき人物、指導者となるべき人物、指導者となるべき人物

の人と為る。其の時の状況を記したるものに曰く、

由来、紀州木炭は田辺熊山藩主の専らに奨励したる事業にして、民間の敢てせざる所なり。廃藩置県の際、藩主の特権も自然に解除せられ、営業の自由権は一般民間に移りたるも、如何せん当時地方の商業家は進取的の気慨乏しく、従つて斯業に志ある者なく、一時該事業も中絶の悲境に陥りたりしが、同氏大人と称する慨然として社会に警告し、殖産興業の国家的なるを主張し、藩主に請ひ、明治五年五月遂に給与の材料を譲受け、以て藩主の遺業を継ぎ、改良を加へて今日の声価を得。同氏の経営せるもののみにて、一ヶ年間実に二十餘萬俵を産出せるに至れり。

右は当時の事實を述べたる記録なり。大人の他の木炭業の継承は、山村の住民に対して相当なる稽古なりしと共に、古座川木炭の発展促進に多大なる貢献ありしを信ずるなり。

故老の言に難波の木炭、初めは石炭箱大の箱詰にして、後に炭俵詰となる、名山炭と称し江戸にて聲価高しと。

海運事業　また他の事業に就ては、東牟婁郡誌等に左の如く記載せり、

明治十七年一月高池町の佐藤長右衛門、知識山麓の下村彦次郎、三重汽船会社神戸支店長吉川義二郎の三氏相謀り、神戸鹿児島間の船路を開き、三重の汽船吉野川丸を串本に寄港せしむ。是れ実に紀南に於ける汽船寄港の嚆矢なりとす。古座より本州の港南洋の航路に向かたる

大船あれば、當時に於ける熊野の乗客と貨物とは、また他の船に集積せるに過ぎざるものと見て、僅に二回にて廃止せり。

と有り、當時に在りては實に破天荒の企なり。是れ両渓大人と相當失望する様なりしを棹入れたることなるべし。他の流船の寄港僅に三回にて廃止せりとありて、失敗に終りたるが如くなるも、他の同航は一の勇撰となり、明治十八年に遠州の鴻益社の流船の廻航となり、明治二十年十月に伊本の神田流船會社（神田清右衛門）経営の設立となる。即大人前輩の功績を忘れざるもの有り。

金融機関　產業の興隆に必須缺くべからざるものは、運輸機関の設と金融機関の備ることとは、實に贅言を須たず、然れども今より五十年許の昔に於ては地方に於ては必要を提唱したる大人の慧眼に驚かざるを得ず。

大人は明治十七年五月高池に熊野融通會社なるものを組織して、利便を與へたるが、地方の事業は年と共に發達し、既設機関は規模小にして、產業の後塵を拜するを感じ。明治二十九年一月の頃に至り、株式會社木國銀行（資本金二十万円を組織せり。然の組織成りてより、事業資金の流通を潤おしたること鮮からず。當時は明治二十七八年戦後の後にして、國内は各種の產業起き、經濟界は活氣を呈し、古來の殖産は木材業隆盛となり、木材業繁榮を極めたる時代なりしを以て、木國銀行の設立は最も機宜に適したる事業たりしなり。明治二十二年に和歌山農工銀行の設立あり、盡力し、組織成りて那賀郡に増

遂せらる。後明治三十七八年の戦役を経て我国は、国運益々隆盛となり、国富愈々増進し。更に大正三年欧洲大戦勃発の以降は、経済輸入国なりしを、一変して輸出国となり、殖産は未曾有の旺盛を極めたり。然れども財界は大正八年上半期を絶頂として、漸次衰退の径路を辿り、才進又退の間の凶慌あり、大震災あり、次て事業界の整理となり、銀行の合併となりたり。是より先、久しく他の地方の金融を畫したる本国銀行は、大正三年に至り遂に拓殖会社生保銀行を合併せられ、大人の設立せられたる拓殖は財界絶頂の前に、金融界に莫大の影響を及ぼすことなる。

大人在世の中は、本国銀行の頭取として金融機関の信用を維持し、経済界に寄与せられたる功績は多大なりしことは、茲に実話を要せず。

林業　能登の地は山岳重畳し、山深く谷狭く、至る所美林良木に富み、木国中に於て木材産出の首脳部となりて、古来能登材の称呼を喧伝せらる。維新の後、文化日に進み、産業日に開け、木材の需用は年と共に盛大となり、従来多数を占めたる黒木山は異常の速力を以て杉檜の山林に転化せらるることとなる。他に於て大の経営は勿論可成改良し、良法を研究せざる可からざるに、林業地は古来慣習を墨守し、甚だ改善研究に乏しき多し。大人は風に先点に着眼せられて、漸く改善を企てられたるが、明治三十八年九月遂に経験者を専門の技師として招聘せられ。之を相し、爆薬を験し、樹種の識別、苗樹の種類を審にし、下刈に間伐に、日懼に記載を掌理に勉せる、造林経営の者なり

指導訓練して経営の盡すべきものあり。是等い特に自家改良の及ぶべき、開墾の地方啟發の力ありたるを信ずるなり。

又我熊野い本州中に於ての唯一の樟地帶の所なり。然るに藩政の頃、其保護の政策を誤り、頻る煩鎖を極めたりと見え、林業者い其の煩累を厭ひて、幼樹の間に之を伐採し、僅に神社境内に残れる其の成木を見るのみにて、民林中に於いて遂に其の跡を絶つに至る。維新の後其の誤れる保護を解かれたるも、一般に向上智を脱するに至らず。然るに大人い言へる如く過去廿三四年頃より樟樹の栽植を企てられたるが、明治二十八年教師を聘用せられてより、大に其の増殖に力められ、栽植の数無慮百萬を算するに至る、當時植脂多きい海・女の業を賛し特に之を賞揚せられたりと云。其の栽植の樹近年著しく成長して、林相美観を呈したり。

而して今や各地の森林中に於て樟樹の点在せるものあるを見るに至り、旧習の改まりたるを認ずる様。而して其の仕方は其方法も、百年の積蓄用の材とするを錯ふ。

鑛山

藩主の頃調査したる熊野の銅山は、舞熊野にては佐野の銅山あり、那賀の銅山あり、田垣内にある二ヶ所の銅鑛あり。口熊野にては樫山村銅山あり、藏土村銅山あり、中村の銅山あり、所在鑛脈は富饒たるを認ず。其の後發見せられたるものは、隣村佐部の銅山あり、其の地を田原村大字佐部大畑と称す。是れ頗る有望のものなりしも未だ之を放棄せざりしが。明治三十七八年戦役の頃一時地方の主要物産たる木材木炭共に不況に陥り、其の事業は従事の労働者に失業の状態となり、遂に地方財界の影響を及ぼさんとするに至る。大人い之を憂い、之を奮へ進ま

佐部銅山の採掘をおこし、為て以て出水傷害の事業を進められしかば、人々其の利を秘り、其の生を安んじ、深く其の業を德とせりと言へり。

以上記述したる事業の外に尚なほ盡力せられたること有るべきも、詳かに之を省き、轉して大人の孝行に関する事項を述べんとす。

大人の孝行

所村の公務に盡されたる履歴、未だ詳かに知る能はざるも、大人の地方の為に盡されたる事、和家に傳へられたる誠に大様を以て孝行なることなり。

救済事業　古餘鑑の年に言へる如く、藩主の築地業の土木工事を起し、窮民を救済したることあり。近年所村に於て行はるる、其業救済を目的とする土木事業の類、之に相関し。

往年頻発する不景気に悩まされ、村民の生活困難に陥りたることあり。大人は當時救済の一策として、池ノ山の溜池を築き、一面に於ては困窮者を救ひ、一面には耕地約八町歩の灌漑を潤沢ならしめる。他の為に農家は、日常を除き労賃を支拂ひ、永久の利益を起し、後世の恵澤を垂るる。大人の之に投ぜられたる経費は三千五百餘円と記録する、其の時代の貨幣價値としては頗る大なるものなり。

他と同様の計劃の下に行はれたる八、別荘地として其の路迫との埋立てし て。其の辺は元と卑湿地にして、強年木挽小屋の設けられたる場所なり。當時の大人は在りて不急の工事なりとも、救済の為に施工せられたるなり。他の埋立地は宮地と為り、一時別荘建ち、今は市街地となる。

道路の改修　高池界の隣村小川村大字小森川に、交通運輸を
たゞ便ず、産物の搬出に小川村の長渕屋を迂回せざるべからず。
故に小森川と高池界大字池ノ山とを聯絡する道路を開け、此
常に利便となり、產業の發達に有力なる塚岡となる。大人に此
の道路開修の為め、又三千五百餘日を費して工事を完成せしめ
らる。此の工、地方に益多きこと少からず。

校舎の增築　小学校々舎の增築は自治体の責任に属するも、
時に武勇搭の增加を顧慮して、此の必須なる事業も其の實行
を躊躇せり。大人は教育の急なるを見地より、金千
五百円を自費を以て高池小学校の增築を決行せしめら
る。

国債の募集　明治三十七八年の戰役に、和家隆替の岐路に立つ
国難なり。此の戰費に主として内国債に依ることとなり、政府は屢
々臣民に公債を募集したり。此の国債募集の成績は一に出征軍人の元気を左右する根
本に対し国力をも示す大度となり、一に出征軍人の元気を左右する根
本となる。故に本郡募額に之を大なり、餘裕綽々たる力を示さざ
るべからず。依て其の募集に力り政府は之を奇特とし、奇特に之を
郡市町村、郡に県村に割當て、以て之を奮作せしめたり。之に対
し感奮して国民は奮て募集に應じ、誠を致したり。當
時高池界の應募額は常に新記録を示し、郡中大人に割當に対
して少しも異論を唱へたることなく、新宮の植松新十郎、屋崎作
次郎二氏は西郡なるを以て心苦しく受くるを常とせり。故に関係の
當局者は大に其の体度の好なるに感し合へり。
戰時の犠牲　明治三十七八年強露と満洲の野に砲火を交へるや、

国民の根本的思想の事件として、何れも孝子の忠心を現さざる人なかりしも、殊に特に於ける大人の誠意は又稽古人に於ける多大なり。

郡部で赤十字社の加盟として特別社員たりしか、事業の為めに其の令嬢なる特別社員の加盟せしめ、自ら奮つて少からざる義金を本社の事業に対し、しかくて其の盛業を称賛し当和歌山支社より有功章を授けらる。

而して尚賛成の事多とするに書かし、其の義勇隊基金の募集あるや、進みて多額の寄金を提出して其の完成を期せるのみならず、地方民衆として之の助力せられ、又其の忠勇顕彰会の設けあるや、同会に金員を寄附したるは之を挙げらる。其の外出征軍人の家族を慰めて其の困難を救はれたるのみならず、戦争等の類なる義多の国体の尊厳なる其の義挙を扶けられたるは故

以上の外明治三十六年九月、和歌山慰問保護院の設立せらるゝや、資金を寄附するの外、評議員として之の事務せられたるは、微力ながらさることなりとす。

斯のかく平素孝子の誠意を表し、小学校界の立朝せられたる義多の功績は、益々世人の認むる所となり。明治四十年特に褒賞を賜ひ、其の善行を表彰せらるゝに至る。其の甚大の寄与たる意の一生涯を止まるものなるを賞するなり。

褒賞

下賜せられたる褒賞の記左の如し、

日本帝国褒章の記

和歌山県東牟婁郡新宮町

佐藤長右衛門

資性温厚風力を以て人望を渇し強て撤藩の際旧藩主の任営に係る本校の中絶せんとするを憂ひ奮ひ志を先づ之を継続し其粗製濫造の弊を矯正して大に改良を加へ以て声價を稽揚し今日地方重要の物産たるに至らしめ又潮池を新設して灌漑を完全ならしめ以て移殖を増進し産物を改良し物産運搬の利便を共へ其他熊野大坂間に汽船航海を開誘して土地の繁栄を図り学校を建築して教育を奨励する等前後樹業する所亦尠からず洵に一家の利益を興し家産著例なりと云ふべし明治十四年十二月廿七日

勲六等の位綬章を賜ふ其二年行を表彰せらる

明治四十年六月十八日

黄綬褒章受領者 従二位勲一等子爵大谷恒

此證を勲六等に昇叙し其五月八日付を以て褒章録簿に登記す

黄綬褒章授与者 従四位勲三等横田香苗

黄綬褒章認定者 従五位勲五等藤井美吉

雑賀の別荘

雑賀の別荘の名い紀南に於て有名なるもの、一なりしなり。往年亡兄遠藤清三郎氏い高池に別荘を構へ、而して其子孫の敬所に敬所に移り、而して其子孫の敬所に移り、而して其子孫の敬所に移り、而して其子孫の

て緋張り、上部は三四尺許黒色の塗壁とあり、壁に刷毛目を印し、壁の
は本瓦形の窓を穿ち、格子を整へ、又面鏡を備へらる。壁の風は別
製の長方形のものを一列に並べ、但し柿をかけて之を飾り。正門は瓦地
板の高窮を置く。柱は樂天の杜の三字を刻し、之を白字とし、其の書
は大、宗家の宗月港潮と號する書家の筆にありたる道新なる
方字なり。他くて其の入口は桐間形にして二枚襖戸を開ひらる。
正門より入れば、入口より玄関口迄一帯石の徒路を通し、玄関脇には數
竹の類竹盆栽として聳あり。玄関の両柱には聯を懸け實閑鉄
斎の顔色なる筆を以て句を認へせり。
玄関を上れば廣さ十畳許、傍まで十畳二間を過ぎて右に曲る
數あり。左數は北の中は一間半の床を設け、床の前に二畳の上段
あり。上段の柱は洗ひを書院を設け。而して中の十畳より座敷にかけ、

三方は縁を周らし、縁の東北隅より別館掃雲閣に通ずる廊下あり
記のごとく
玄関の南側は一小室あり。一小室は次て大人の書斎あり、培竹盆栽と
高き、左は梧桐あり、明竹あり、書斎は名づくる所以なり。此一小室の
南は一洋館あり、撞球臺を備へ、蓋し宴遊間の具に供せる
なり。玄関の北側は茶室あり、遠く孫廣を置く、次は松室あり、清涼
喜ぶべし。其の他家人の居室なる所、蟬僕の園堂なる所、浴室あり、
化粧室あり、物置の場ありて各種の設備整へり。
掃雲閣は土を封して土を高くし、樓閣を其の上に構へ。大座敷あり、
小座敷あり數多の小室ありて部屋は便あり。往年侯爵鍋島家
氏来遊の企ありし、為に此の高屋を建て、以て侯を迎ふること、せりと。然れども
而して侯来遊を異さず、從此共に遺憾とする。

以上の建築は匠人、坪者、石工等其の良を招きて之を企画する。其の材料、其の結構、何れも精妙を尽し、所謂舞雲の手の届けるを賞す。

庭園も亦京都の良業駝の手に成るもの。密林あり、疎林あり、喬木樹木、奇花異草、芝生樹蹟として各姿態あり。其種類に至りては松、梅、柳、桃、楓、木蘭、山茶花、石榴、石南、南天、蓮翠、珍草異卉に至るまで数多の豊あらず。而して其間に大小の奇石を點綴し、俗世なるもの、仰ぎ見るもの、何皆、塗炭相交じて雅趣を加ふ。樹陰に小亭あり、鶴心亭といふ、清泉其の下を流る。石間に曲池あり、瓶あり、之に加へ、雅客あり趣添ふ。又社中に倉庫あり異倉珍鳥を飼ふ。

都右等の設備、或は人力に無用とするも、贅沢とするべし。而して其言ふ所らさるものあり。左を顕官紳士の鶴駕に迎へ、他の地を過ぎんとする者常に好箇の旅舎なきを嘆ず、他の為に道に歩を抜け杖を駐めさるに至るを恐る。故に大人他の設備を新たにして其の不便を除き、一に以て顕官紳士の旅情を慰め、一に以て天を繁栄を祈るの為とす。別社開設以来、彩鞭を初め顕官紳士の鶴駕に美らるる所のもの、皆其の行程京都町に近きを常とするに至り。新長の別社の名四方に聞え、他の地を過ぐるもの必ず一たび目を富せんことを希ふに至るに到れり。

明治四十年大人歿せらるを尚ほ遠からず、他の別社に次ぐの建物に西向村の寺田喜代松氏の、其他主要部の建物に建築を係せ大坂の人鈴木駅次氏の手に帰せられ、何れも其の地に移轉せらるに至れり。

別社の立地

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015

聖天社の室内装飾としては、先づ座敷の襖を挙げさるべからず。座敷と次の間との敷居二間半四枚の襖あり、其の一面は「雲の田能村直入の筆にして着色山水の図なり。」見目を驚かせしき大作にして直入の画としては無比の逸品と謂ふべし。其の裏と之と相対する次の間の襖とは徐ろに枝垂竹堂の竹林猛虎図にして之を見るに猛虎畏怖すべき作なり。竹堂は猛虎の名手をもって聞き、密画極彩色にして精緻真に逼る。其の間の北手四枚の襖は今尾景年の七賢人にして、画伯は南濤大人の為に其の画腕を揮ひたる物にして、筆力優秀稀に見る所なり。又其の次の間なる鈴木松年の松鶴の襖あり、是亦雄渾美しき傑作にして何れも好事家の賞讃して措かざる所なりとす。是等の諸作を建物に添へて飾さる。

窮屈の逸品其の所蔵多し、往訪の時目にしたるものは物茂卿の書、細井廣沢の書、篠崎小竹の大字等にして皆得難き品なり。山陽の背山臨流の四字額あり、特に別註を煩さるべきものなり。其名海屋の書「華発某家食之壽命長」の大字亦頗る大人の雲玩せらるべき所なりと聞く。

動物の産地として第百點なるを知れり。而して岡田半江の神品の多きを重りとす。他の逸書なる者あるを聞かず。半江の内其の最優秀なるものを大米鶴の長幅屏とす、他の幅物一対と逸品あり。或年真人の門弟宇佐竹霞、久しく聖天社の壁画を執り、他の半江を見て嘆賞措く能はず、之を敬して筆写を請ひたるも、遂に及ばざりしとぞ。

接したり。後輩つて之を其の師真人に語りたるに、真人笑ひて曰く、其の画は雷と霹靂と之を驚嘆せり、汝の及ばざるは固なり、予と雖も絶世の妙なるを聞及ばずと言へりと聞く。直人は近代の大手筆なり、而して其の

竹霞、河村虹外より

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04015

言所の如し、以て其の無比の神品たるを認むべし。其の他半江の佳品甚だ多し、是等は半江の門人橋本桂園の愛蔵品なりしを、桂園の門人和田某氏の蔵するもの、其の恵南女の敬遠を惜み、大人の勧めて学ばしめたるもの、集恐らくは全国稀有のものなるべし。半江を外にして海屋、梅逸、蕉村、大雅、竹田、鶴堂、芸雪、呉春、昌文世等一流の名画あり、明清大家の画、和漢の書あるまた枕屏あり、屏あり、屏あらんと云ふ。

更に器物は花瓶香炉の玉器あり、紅水晶の菓子鉢あり、其の他の珍品たり。陶磁は青磁あり、南京、呉須、高麗、交趾の類あり。

国産の古きものは古九谷、古伊万里、古唐津、古備前の如きあり。近きものは頭巾、木瓜、仁清、道八の如きありて、何れも得難からざるものの尽くなり。

別に書画を愛むる人の中には、古等の書画皆什を賞賛して、実に古座川の風景に上ありと稱する者ありたりと聞けり。

大人の逸話

青磁の花生　大人、愛蔵せらるゝ所の青磁の花器を出し、床の間の卓上に置き、自ら梅花を挿みて愛でまる、時香室に満ち、高士逸趣の録あり。明日一婢、壁拂を揮ふ、座敷を掃除し、其の端曲にて枝に触れたるに、花器忽ち震ひ、碎破し、花瓶も水散し、破片狼藉計。婢色を失ふ呆然計。大人書斎に在り、異響を聞きて、徐に来りて之を見て曰く、梅枝長きに失したるなりと、僕の失を咎めず。婢顔色の思ひをなし、感極まり、泣涙して詫を出でず。是れ単に偶然の謝したりと云。

好活性　佐々木紫吉氏幼時、雑談の音質とより、大人に居た。

岩吉氏書を好む。格竹岩吉の貧名海屋幸八郎の活物あり、其他佳し。山岡吉氏一日掛かり吉を撫で、机の戴物を類りの臨書せり。偶大人客の来り背後の立ちて之を見る、後の曰くまた活物之を何人の得たるやと。岩吉氏顧みれば大人なり、驚き謝して曰く主人の書奇の在り感の堪えず、少時の撫でて之を習ふ、偶の貧想を請ふと。大人笑顔として笑ひて曰く、豪邸の自ら、唯活業を慎めと、悠々書斎の去る。

お場の之事　一日大人晩餐を傾く、時の警鐘遠りの鳴り、侍頭人路を急ぎ。大人食を撤め提灯を點し、従者数輩を伴ひて本場の赴けり、正の消防の努むと雖も猛火鎮火せ。一人あり親長の提灯を望みて曰く、旦那来る、消せ、消せと家驚きて奮励傷されいく炎急ち熄む。其の里人の重んせらること此の如し。

基本的　大人本宅の裏門より、道を横ぎりて別墅の入らんとするとき、必ず軒の臨みて左顧右眄し、くるまを停めて帰る、里人の猶せしむることを基本的なるべし。

有祐　家の活要ある毎の、必ず悉く里人の白米を煙りて施物、借貸し、出入の人の報酬を奇を借す。富人の驕態の此、誠意死者の(異)福を祈らるべし。

学資の給与　大人育英を楽まる、秀才の学生の学資を給して其の業を成さしむ。石井の周く衆を以て為るの、新宮の人の田中英、北村英、本下英あり、吉塗、吉池の屋峰英、球野英、大井英あり、其の他の安原英、中村英あり、是等の家の大学の、或の高等学校の、又或の中学校の(其学校を)学ぶ人等にして、何れも皆其人の恵の賜の如し。

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

高森の印材　新宮の高森新平氏、美玉の印材を得たり、其た
佳し、高わかく当く雅趣と能とも若かさるべしと。一日之を懐ひして
紫天荘を訪ひ、談印材に及ぶや、大人曰く家に小什を蔵す、請ふ
之を示さんと、自ら於室中より数點を出さる。之を視るに皆驚
くべき逸品なり、新平氏感ずるの余、遂に之を能いず、留ひて
社を辞して帰る。其の蔵品の豊なるかて下るべし。新平氏、等閑
刻の名あり、又能く古春を鑑る。

呈人の徳容　石宵初めて高池に至りたる時、呈人の徳容あるに驚
きたり。一日雅兄の宅を訪ひ、客に人吉沢喜夫氏あり、出て、徳輝
を交ふ。金沢氏徳を前に傾け、双手に掌を畳み、其の聴侍仕
るや、其の双掌を畳みて出ることなく、時畳に接し、頭脳に
接する此、恰も双掌を額下に引きて、頭首を垂れしが如し、後俗

に頭を擡げて正座に復せるなり。大人の家学、懇懃世に多きこ
と此の如し、而して郷党之に化せるなり。

大人の交友　大人の交友に知名の士多し。学者に小野湖山、川
田甕江、江南天江、谷如意、岡鹿門、石橋雪耒等の諸先生あ
り。書家に小富岡鉄斎、田能村直入、山中信天翁、村田香谷等の諸
氏、高知藩の大家なり。又鉅万大家に久我侯、伯爵、東
久世伯、陸奥伯、土方伯、中島信行、岡崎邦輔、神山郡廣、松本
鼎、下村房次郎等の名士あり、傾倒せる追ありしとか。

南海志　古登川の勝景、今の世既に之を知るも、往古の態
容の時地の那渠、九星峡に止まるのみ、地僻に道険なる古
登川に、之を勢すの稀なりしか。蓋近元年伊勢の大儒斎藤
拙堂先生舟を深くして古登川を探り、勝賞惜かず、乃其の雲

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

等を聞いたが、南海志中の人物である。古座川の景勝は人の名畫を展望するが如く、堂宇生花の滋味記の化事たり、南海志の實に其の双美を鍾めたるものなり。後年大人其の招待を謝受け、之を歌劇に作りて天下の名士に頒ち、以来名士の高堂に出入するものが少からざるに至る。

履歴

大人の履歴其の概要左の如し

年月日	要事	官公署
明治五年十月廿四日	東牟婁郡高池村樫山村戸長申付候事	和歌山縣
明治六年二月廿四日	東牟婁郡第二十七番学區学務委員申付候事（第四十八番）	同
明治六年四月廿二日	任東牟婁郡高池村樫山村戸長	同
明治十七年三月十七日	依願免本官	同
明治十七年五月六日	東牟婁郡第二十七番学區学務委員申付候事	同
明治十七年七月三日	任和歌山縣東牟婁郡古座浦外七村戸長	同
明治十七年八月十日	浦後人員減申付候事	同
明治十八年三月十六日	依願免本官並面官	同
明治十九年五月二十三日	高池村農蘭之勧業委員ニ當選	古座浦外七村戸長兼務
明治二十年四月十八日	高池村會議員ニ當選就職ス	高池村
明治二十年五月二十四日	高池村長ニ當選就職ス	同
明治二十二年四月二十日	高池村長ニ復職ス	同
明治二十四年四月十七日	高池村常設学校学務委員ニ當選就職ス	同
明治二十六年四月二十六日	常設学校学務委員ニ當選就職ス	同
明治四十年六月八日	従五等下賜せらる	當惑局

以上の外、金貨壱拾等ニ依り、壱百壱拾円壱拾銭、木杯、上下の類数点多くして、枚挙に遑ありされど紙幅之を略す。

二 少林文翁老師

少林文翁老師は高知県安芸郡大字池ノ口なる鷲谷山靈鷲寺の先住なり。老師は衣鉢を現住和尚に譲り、自ら池ノ口の山麓に小庵を結びて、之に隠棲せらる。之を訪ふに、白眉皓髭、豊頬慈眼、一見して高徳の老禅師たるを感ぜしむ。

老師の何歳の人なりしや云ふ。幼にして俊英、婦女を近つけず、酒を口にせず。人を化するに徳行をもつてし、之を訓誨するに口舌をもつてせず。初めて靈鷲寺に住職となりて十五年、勇行自らを、道術日に進む。人之に高僧の尊称を奉じて名聲を揚げんことを務むるも笑つて応ぜず。漸くにして空間、吹佛道と称せん

ことを希ふ。心境明朗、胸襟豁然、移欲に男せらるること久しく、古墨に浄さることあるこの世の塵中の帰依強く、村民の信仰特に厚し。

老師は北宇曼殊羅の永崎寺住職鈞提和尚の弟子なり、鈞提和尚は博学達識、勇止端正、逸道鈍仰讃嘆せざるなし。

三重県郡津村の高台近村を過ぐる時は、必ず其の屋を訪ひ、其の家に祝せざるなしと云ふ。鈞提和尚は詩を巧にし、書を能くし、画も亦孟夢孫素家の及ぶべきる所なりしと云ふ。其の残筒書墨は人皆之を貴重する所なり。

又翁老師は鈞提和尚に師事して禅あり。其の意匠に依りて、道心清雅、徳操絜白なり、詩書に亦其の師に追随するに足りて、俗塵を超越したるものあり。昭和五年の冬重患に罹りたるも、幸に癒ゆるを得

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 04015

たるか、昭和七年五月二日を記さる。弟子某枕頭に集り、清茶蘭
香漂うあたかもたるも遂に起つあたはず、その年十一月三十日をもって眠る
かのごとく安然遷化せらる。壽八十一。境内の浄塋に葬る、謚して
法雄文翁和尚と云ふ。聞くところ深く女の死を惜む。
その面の遺稿にまたこれを見るを得る、輓近一詩を某氏の壁
間に見るを得たり。曰く

題四君子圖　七十九翁　雪窓定静納

幽谷佳人入窓誰、瘦枝帶月影萎萎、秋英自儼嚴霜後、
知是此君有又嬌

池ノ口に雪山あり、奇岩壁立し、怪石累累し、松柏繁茂して、松檜
蒼蒼たり。その下に精舎あり、雪巖寺即ち是なり。境内地浄
く、明月疎松を照らし、庭砂細塵を止めず。

曹洞宗新谷山雪巖寺とする

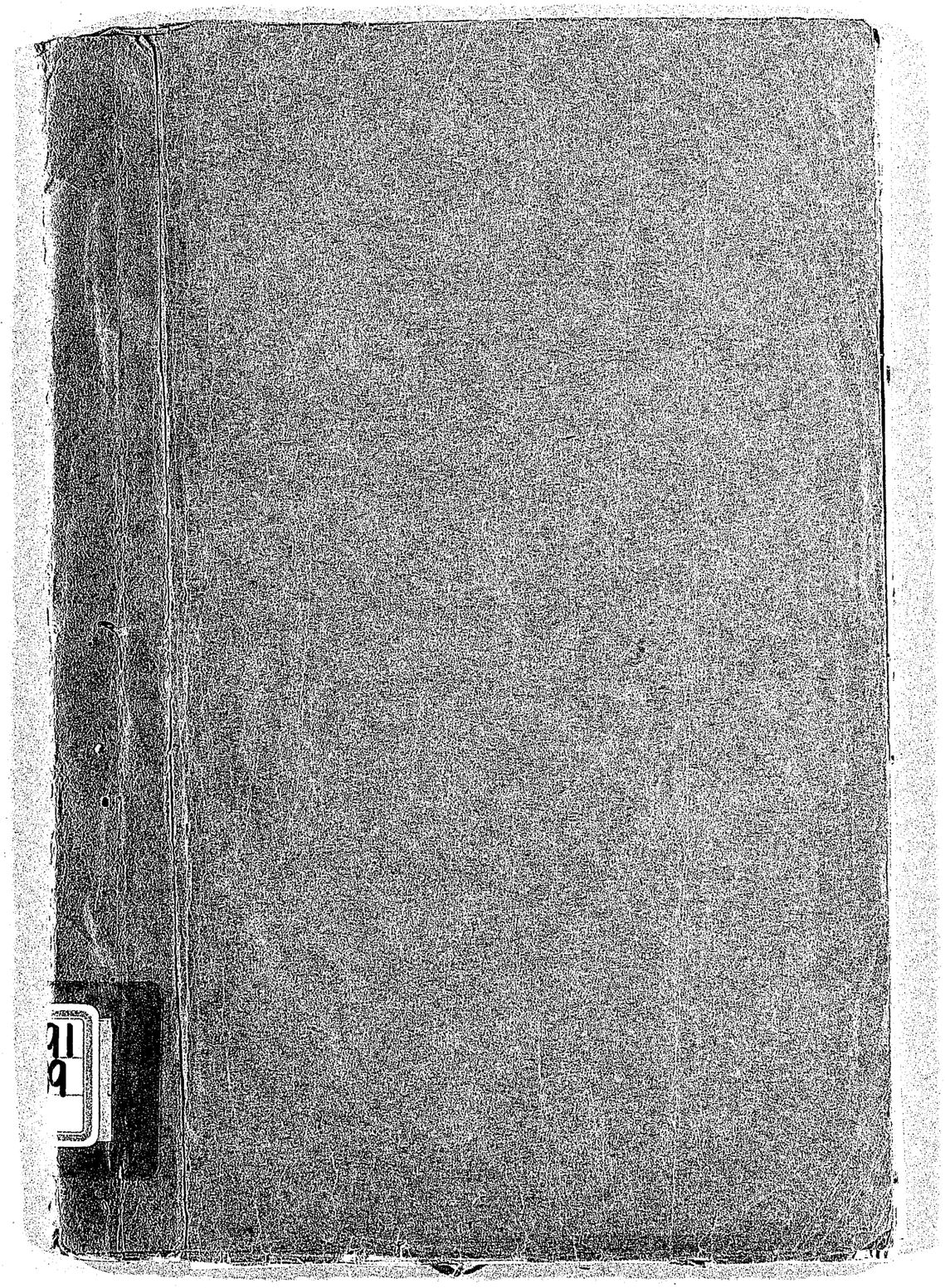
往年高池所の池辺、一日浜大人に面して、女の事常人に超ずるを
知り、後文翁和尚に謂って以為く遠く時流を抜くと。又以為く近
代高池所の人物を常に見れば、その格を二氏に屈せざるを得ずと。
而して二氏人に既に冥界に入り、幽境に遊び、相共に此の雪地に
眠らる、前日枕を此の墳間に聞き、謹んで二氏の墓上に別に祭祀
し、往事を追懐して、輙ち今昔の感に堪えざるものあると共に
その事蹟の漸く堙滅せんとするを惜む。敢て自ら女の墓を顧
みて、安りに一言を述べて碑の記を作ると云ふ。再。

（昭和九年十月中浣　古座高校教諭　宮居忠謹識）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　04015

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015



県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 04015